# 持続可能な社会の探究Ⅰ　経済発展と環境

地歴公民科（地理）　沼　畑　早　苗
理　　科（物理）　朝　倉　　彬

## １．はじめに

本講座は，環境問題の現状を理解し，解決方法を探るための議論･探究を行うことで，主体的に課題を発見し解決する力やコミュニケーション能力を養うことを目指すとともに，課題を解決するための具体的な方策を検討したり，他者の異なる意見をまとめたりする経験を通して，未来のグローバル・リーダーの育成を目指すことをねらいとしている。

年度当初は，受講者20名が自ら設定した様々な探究テーマを持ち寄り，それを共有することで講座がスタートした。４月～６月は，課題探究を進める上で必要となる基礎的知識や論理的な思考力の基盤形成を促す時期と位置づけ，１年次に必修グローバル地理において学習した参考文献の探し方，レポートや論文執筆のためのルール等を確認するとともに，文献やインターネットでは得られない情報入手を目的に，東京農工大学工学部銭衛華教授の研究室及び東京大学社会科学研究所宇野重規教授を訪問した他，生徒が自ら訪問先を設定し，聞き取り調査を実施した。また，民間企業等の外部講師を招聘した授業やお茶の水女子大学博士課程の外国人留学生（中国・ハンガリー・ロシア）と英語でディスカッションする場を設けることなどを通じて，生徒の主体的な学びを促した。

７月からは，研究テーマが類似する生徒どうしが５グループに分かれ，グループ単位で課題探究を深めつつ，その内容を発信する場として，「第19回全国中学高校Webコンテスト」（特定非営利活動法人学校インターネット教育推進協会主催），「第２回全国ユース環境活動発表大会」（独立行政法人環境再生保全機構，環境省及び国連大学サステイナビリティ高等研究所による共催）といった大会等への作品の応募や出場を課した。これらの取組を通して，期限を意識しながらグループ内で作業の分担・進捗管理を行い，異なる意見・価値観を持つ他者と議論や調査等を重ね，成果物をまとめ上げていくことにより，他者と協働してより質の高い課題探究を目指すよう指導した（「第２回全国ユース環境活動発表大会」では１グループが全国大会に出場し優秀賞を受賞、「第19回全国中学高校Webコンテスト」では３グループが最終予選を通過し，金賞を受賞）。

本授業では，２年生と次年度受講予定の１年生が，探究成果だけでなくテーマ設定や探究過程における経験を共有することで，２年生が自身の１年間の活動を振り返るとともに，これから本格的な探究活動を始める１年生が今後の活動の具体的イメージを獲得し，来年度の探究活動の質的向上をねらいとした。

## ２．対象生徒

第２学年「経済発展と環境」受講者 20 名

第１学年「経済発展と環境」次年度受講予定者 24 名

## ３．実施

日時：　３月 18 日（土）

10：00 ～ 11：50　第１部（全体会）

講座代表生徒よる成果発表（プレゼンテーション）

「東京オリンピック・パラリンピックに向けた地震対策」

13：00 ～ 14：20　第２部（講座別分科会）本時

## ４．本時の流れ

(1) 本時のねらいを説明

(2) ２年生による成果発表（第１部で発表しなかった グループによる発表）

- 「未来改造計画―エネルギーの地産地消を考える」
- 「食品ロス問題の解決に向けて」
- 「服と環境問題―“服”で地球を幸“福”に」
- 「What Makes You Happy? −幸せな環境とは−」

(3) １・２年生合同のグループワーク

①１・２年生合同の 10 グループに分かれる。

②資料（右図）を参考にしながら，以下の項目について，１年生から２年生へインタビューを行ない，２年生は自分の経験を伝える。

A）探究スケジュール　B）テーマ設定　C）フィールドワーク

D）グループ協働作業　E）成果の発信の仕方　F）その他

③途中でグループ編成を変える（２回）。

(4) ワークシートを用いた本時の振り返り

## ５．おわりに

本授業の振り返り結果を見ると，２年生は「今日の発表会・分科会を通じて改めて自分の１年間の取組を振り返ることができた」(100%)，「探究 I の経験者として伝えるべきことを伝えられた」(95.8%) と回答し，１年生も「自分なりの疑問や課題をもって臨むことができた」(95.8%)，「自分なりの疑問や課題に感じていたことを解消することができた」(95.8%) と回答していることから，本授業には大きな意義があったといえる。

自由記述からも，「とても充実した時間だった」「来年度も是非やるべき」といった前向きな回答がほとんどであったが，「想像より遥かに大変そう」という声もあり，講座選択の段階でより詳しく説明するなど運営方法の改善を重ねることで，ミスマッチを防ぐ工夫が大切であると感じた。